

〈目的〉 昨年は、共働き夫婦の役割分担、結婚満足度の規定要因について報告した。今年には、新たにケーススタディによる考察を加え、夫婦の結婚満足度について夫の側の要因を中心に明らかにする。

〈方法〉 共働き家族の研究(3)に同じ。結婚満足度尺度は、Stinnettの Marital Need Satisfaction Scale を日本人向けに作成し直したものを用いた。

〈結果〉 ①夫と妻の結婚満足度の間には高い相関がみられる。②妻の職業の有無は直接結婚満足度を規定しない。しかし、パートの妻の満足度はやや低くなる。③夫婦の就業形態組み合わせでみると、夫婦ともに官公庁勤務(教員を含む)の場合、結婚満足度は高い。しかし、妻が官公庁で、夫が民間勤務の場合、夫の満足度は低くなる。これは、男女の平等意識が強く、家事遂行レベルの低い傾向をもつ官公庁勤務の妻に対し、時間的に余裕があり、役割意識の柔軟な官公庁勤務の夫は不満をもたないが、帰宅時間が遅く、伝統的役割分業意識の強い民間勤務の夫は不満を感じてからである。④夫の家事参加や家事能力の高さは妻の結婚満足度を高める。しかし、夫不参加型の妻の結婚は必ずしも低くならない。これは、「家事は妻がすべき」という意識が一致している夫婦において、結婚満足度は高いことから裏付けられる。⑤夫の育児への参加時間や、子どもへの認知度の高さは、夫婦の結婚満足度を高める。⑥子どものしつけへの満足度は夫婦とも結婚満足度との相関が高い。特に夫において関連が強いのは、夫が妻の育児に対して強い期待をもっていることと反映している。